

実践例 2 「青森県のりんご栽培」

弘前大学教育学部附属中学校

佐々木 誠

1. 単元名 日本 の 諸 地 域 ― 東 北 地 方 ―

2. 単元について

日本の諸地域の学習の中でも東北地方の学習は、自分たちの住んでいる地域であるということから生徒たちの関心も深く、小学校での学習とか生活体験の中から、自然のようす・歴史的背景・産業のようすなどある程度のイメージを持っており、身近なものとして受けとめることのできる単元である。したがって、この単元の取り扱いにおいては、広い視野で東北地方を見るときともに、思いきった教材の精選により東北地方の姿をより具体的に認識できる題材をとりあげ、身近な資料の活用などによって、人々の生活や社会事象を実感として受けとめさせるようにしたい。

授業の展開にあたっては、東北地方の自然的条件や位置的条件からくる産業の特色に注目させるとともに、他の地域との結びつきについて考えさせることが必要であろう。また、交通機関の発達にともなう、地方公共団体や各産業部門の対応・変容などから、東北地方の開発や発展性について考えさせたい。

3. 生徒について

・授業クラス ― 2年E組（男子23名、女子21名、計44名）

本校は弘前市の南郊に位置するが、学区は列車等で通学できる範囲と定められているため、その通学範囲が広く、弘前市内だけでなく周辺都市からの通学生も多い。このクラスの場合は、弘前市居住の生徒が29人（66％）である。また農家の子弟は1名だけであり、りんご産地の中心地津軽地方に住むといえども、りんご生産と直接関係する生徒はいない。このクラスは比較的明るく活発な生徒が多いが、じっくり考えるという面ではやや弱さがあり、授業にあたっては資料から考えさせることに力を入れて指導している。

4. 単元の目標

- ① 東北地方の地理的位置、歴史的背景、地形、気候の特色などから、人々がどのように自然を利用し、働きかけをしているかの理解を深める。
- ② 人口・物資の移動・産業のようすから、労働力・食糧の供給地としての性格を把握させ、他地域との関係、地域開発との関係を考えさせる。
- ③ 東北地方に関する地図・統計その他の資料を適切に活用する能力を養う。

5. 指導計画（配当時間 7時間）

- | | | |
|-----------------------|------------------------|------------|
| (1) 自然と人々の生活 ―――― 1時間 | (4) 青森県のりんご栽培 ―――― 2時間 | （本時は第2時間目） |
| (2) 稲作中心の農業 ―――― 1時間 | (5) 三陸の漁業 ―――― 1時間 | |
| (3) 稲作農家のかかえる問題 ― 1時間 | (6) 東北の工業と地域開発 ― 1時間 | |

6. 研究主題との関連

- (1) 「地理的見方・考え方を養う」方法として、次の四点を授業の流れの中に意図的にとり入れる。
- ① 地域の特色を他の地域との比較関連においてとらえさせる。
 - ② 地域や、そこに住む人々の生活に関する諸事象の特色を生みだした地理的諸条件について考えさせる。
 - ③ 自然および社会的条件と人間との関係について考えさせる。
 - ④ 地域の変容に気づかせ、その動向や意味について考えさせる。
- (2) 教材の精選
- ① 東北地方の産業構造および地域の特色から、農業面の学習に重点をおき、稲作に2時間、果樹栽培に2時間をとる。
 - ② 基本的事項を整理精選するとともに、この單元においては、できるだけ身近な資料を活用することにより、学習への関心と理解を深めるようにする。
- (3) 指導にあたって
- ① 事前に提示する学習課題にそって、教科書や地図帳および資料集の資料から自分なりに整理させる。課題によっては補充資料を提示する。
 - ② 個人および、グループの発表を多くとり入れるようにする。

7. 本時の指導計画

- (1) 題材名 青森のりんご栽培
- (2) 本時の目標
- ① 東北地方の果樹栽培について、生産の多い果樹とその主な生産県を統計資料から読みとり、他の地域と比較しその特徴を説明できる。
 - ② 青森県のりんご栽培地域を確認し、どのような土地が果樹園に利用されているかを大縮尺の地形図から読みとり説明できる。
 - ③ 青森県のりんご栽培はどのように発展してきたかを年表などから概観し、りんご導入の時期や急激に発達した時期を読みとらせ、その背景について気づかせる。
 - ④ どのような品種が多くなってきたかをグラフや表から読みとり、栽培する品種の変化がおこってきた理由を考えさせる。
 - ⑤ りんごの栽培はどのようにおこなわれているかを、作業暦や資料から読みとる。
 - ⑥ 生産されたりんごはどのように出荷されているかを資料から読みとり、他県ものや他の果物との競合について考えさせる。
- (3) 本時の授業過程
- 前時の活動（2時間扱いの1時間目）
 - ・学習課題にそって個人で調べてきたことを、資料と照らし再確認し要点を整理する。
 - ・グループごとに発表の手順を考え、発表に必要な資料を整理する。
 - 本時の授業は（2時間扱いの2時間目）

	教師の発問・助言・説明	生徒の反応・活動	具体的資料・留意点
課題把握	<p>1. りんご栽培について調べてどんな感想を持ちましたか。</p> <p>○興味があったことがあったか。</p> <p>○新しい発見があったか。</p> <p>2. りんご栽培についてどんなことを学習したいか。</p> <p>〔青森県のりんご栽培はどのようにおこなわれ、どのような問題をかかえているか。〕</p>	<p>○個人に指名し発表させる。</p> <p>○学習課題の中で興味がわいたこと。</p> <p>○グループ発表課題を調べてみて。</p>	<p>重点をかけて学習する課題を確認させる。</p>
課題追究	<p>3. 東北地方の果樹栽培は全国的にみて、どんなでしょう。</p> <p>○どのような果樹が栽培されているか。</p> <p>○西南日本と比較しての特色は。</p> <p>4. 青森県の中でりんご栽培のさかんな地域はどのへんでしょう。</p> <p>○郡市別の生産高で多い地方は。</p> <p>○どのような自然条件のところか。</p> <p>5. りんごの栽培はいつごろから始まったのでしょうか。</p> <p>○急激に生産が伸びたのはいつ頃か。</p> <p>6. りんごの品種はどのように変わってきたのでしょうか。</p> <p>○どのような品種が多くなってきたか。</p> <p>○品種が変わってきた背景を考えてみよう。</p> <p>7. りんごができるまでに農家はどのような作業を行うのでしょうか。</p> <p>8. 生産されたりんごはどのように消費され、またどの地方に出荷されているのでしょうか。</p>	<p>○発表班の発表と資料で確かめる。</p> <p>○東北日本はりんご、西南日本はみかんの栽培が中心であることを読みとる。</p> <p>○自由に発表した後、資料で確認する。</p> <p>○土地利用図から果樹園の分布と地形との関連をつかむ。</p> <p>○発表班の発表を聞き確認する。</p> <p>○グラフから確認し、その理由を教師の説明からつかむ。</p> <p>○発表班の発表を聞き、自分の考えをのべる。</p> <p>○農家の立場からみたらどういことがいえるか自由に発表させる。</p> <p>○資料を読んだテープを聞きながらスライドを見る。</p> <p>○感想をのべさせる。</p> <p>○資料から生果用が多いことを読みとる。</p> <p>○資料から関東地方が多いことを読みとる。</p>	<p>資料集 P 78 の統計「県別生産高」</p> <p>資料「郡市別りんご生産高」</p> <p>5万分の1「弘前」の自作土地利用図</p> <p>資料「生産高と栽培面積のうつりかわり」</p> <p>スライド「りんごの品種」</p> <p>資料「品種別生産高の推移」</p> <p>資料「りんごの旅立ち」</p> <p>スライド「農家の作業のようす」</p> <p>資料「青森県のりんごの流通」</p>

整理・一般化	<p>9. 青森県のりんご栽培の問題としてどのようなことが考えられますか。</p> <p>〔青森県のりんご栽培の現状とその問題点などから、東北地方の果樹栽培のさかんな理由と共通する悩みについて考えてみよう。〕</p>	<p>○自由に発表させ、教師が補足しまとめる。</p>	<p>流通の問題にはあまり深入りせず、公民的分野での学習への伏線とする。</p>
--------	--	-----------------------------	--

(4) 評価の観点

- ① 目標がおさえられたか。
- ② 学習内容に関心を持ち、積極的にとりくんだか。

(付 記)

以上の特別寄稿3編は、昭和59年10月に開催された第27回東北社会科教育研究協議会弘前大会（中学校の部）の発表要旨を、著者の許可を得て転載したものである。